

◇ 開催日時及び場所

令和5年9月21日(木) 午後1時30分から午後3時00分まで
オンライン(ZOOM)開催

◇ 会議構成員

配布資料の名簿のとおり
※以下、発言者は組織名の略称で記載

◇ 座長

保健・疾病対策課長

◆ 開会

骨髄バンク事業における役割分担について

県から説明(資料1)

- ・前提として、骨髄バンク事業における役割分担について説明。
- ・役割分担には記載されていないが、ボランティア団体の協力も不可欠。ボランティア団体は、ドナー登録会で説明員をしたり、普及啓発にお力添えいただいている。

◆ 議事

(1) 骨髄バンクの現状について

① 全国の現状と課題

日本骨髄バンクから説明(資料2)

- ・40代後半以降に登録者数が集中。このままいくと3年以内に新規登録数と取消数が逆転し、登録数が減少する。ドナープール縮小回避のため、若年層ドナーの登録拡充が重要。
- ・若年層ドナーを増やしたい上記以外の理由に、20・30代のドナーは健康状態が良く提供できる方が多いことと、移植後の治療成績が高いと言われていることがある。
- ・若年層にドナー登録と骨髄バンク事業の認知度を上げるための取組を行っている。SNSで「オレンジプロジェクト」と題して発信を行っている。
- ・令和7年以降、スワブによるドナー登録の本格導入を目指している。これが実現すれば登録会や保健所に足を運ばなくてもドナー登録ができるようになる。
- ・学校での登録会は、毎年生徒が変わっていくので、同じ場所で開催しても一定の登録数を確保できる。

② 長野県の現状について

県から説明(資料3)

- ・長野県のドナー登録対象年齢人口千人あたりのドナー登録割合は未だ全国平均以下。全国平均並みにするためには、2,600人程度の増加が必要。
- ・県内の新規ドナー登録は、主に献血併行型での登録である。
- ・昨年度開催された献血併行型登録会について、地域別に分析すると、佐久・長野地域が回数・登録数ともに多い。
- ・商業施設、市役所等での定期的な開催と大学等、イベントでの開催が効果的。
- ・県の骨髄バンクドナー助成制度補助金は52市町村で導入済み。

——【骨髄採取・移植認定施設からの意見】——

長野赤十字病院(植木)

- ・現場では関係者の皆さんの努力によってか、ドナーが見つからなくて困るという感触はない。骨髄バンクで間に合わないときは臍帯血移植をしている。
- ・コロナでコーディネーターが滞り、移植がキャンセルになったということはあった。

まつもと医療センター（伊藤）

- ・コロナにより、コーディネートが進んでいたのに終了になったとか、他の医療機関では患者さんが移植のため治療を始めてからキャンセルになったことがあった。この場合は、骨髄・末梢血幹細胞を冷凍保存して確実に採れてから、移植の治療を始めることがあった。
- ・採取に関しては、ドナーが献身的な方ばかりで、移植をしている施設としては頭が下がる思い。
- ・若い方が、いろんな意味で取る側としても安心感が高い。今後は、若いドナーをどうやって増やすかが課題と思う。

——【質問・意見等】——

ひまわりの会（中村）

- ・県内で採取ができる医療機関は、信州大学医学部附属病院、長野赤十字病院、まつもと医療センターの3か所で間違いないか。

保健・疾病対策課

- ・間違いない。

ひまわりの会（中村）

- ・県の骨髄バンクドナー助成制度補助金についてのホームページが令和3年度以降更新されていない。更新をお願いしたい。

保健・疾病対策課

- ・最新のものにしたい。

ひまわりの会（中村）

- ・9月19日のニュースでドナー助成制度について、来年から国で制度化するという記事が出ているが、この辺はなにかわかるか。

保健・疾病対策課

- ・国の概算要求を調べる。後日返答する。

ひまわりの会（笠原）

- ・国のドナー助成制度については、既に決定したと、全国骨髄バンク推進連絡協議会経由でひまわりの会には連絡が来ている。

保健・疾病対策課

- ・情報の把握が遅く申し訳ない。この後調べる。
-

（2）令和4年度の活動報告について

①長野県の取組について

県から説明（資料4）

- ・大学生向けにクリアファイルを作成し配布。
- ・その他昨年度も例年と同様の取組を実施。

②ドナー登録会の実施状況

長野県赤十字血液センターから説明（資料5）

- ・会場の選定は、登録の説明ができるスペースが確保できること、先方の同意が得られていることに加えて、説明員が対応できるかということを押さえている。
- ・徐々にイベントが増えてきているため、若年層の登録が見込める会場の実施に結び付けたいと考えている。

③各団体からの報告（資料なし）

骨髄バンク長野ひまわりの会から説明

- ・昨年からNPO法人に名前を変えて活動している。無報酬でボランティアとして活動しており、現在、説明員は29名。
- ・ドナー登録会での説明、イエローシートキャンペーンで寄付をいただく等の活動を行っている。
- ・令和4年度は、大学等での語り部講演会の実施、松本駅での街頭演説とティッシュの配布の啓発活動を実施。
- ・今、力を入れてやっているのは「笑顔の種まきリレー 命のひまわり」というもの。諏訪圏内の小中学生14,000人にひまわりの種を配布し、植物を育ててもらい、命の大切さを知ってもらいつつ、骨髄バンクについて周知するというをやっている。子どもたちが育てたひまわりの種を回収し、翌年配ることを「命のリレー」として実施している。
- ・種の袋詰めには、ボランティア団体、諏訪の福祉大学・諏訪日赤専門学生に作成してもらっている。この事業がきっかけで、日赤の看護学生が骨髄バンクに関心を持ち、授業に取り入れてくれた。また、学校に頼まれてひまわりの会が講演会をし、当日学生によるグループワークもなされた。この

ような活動で若い人に興味を持ってもらえと思った。

- ・令和5年度は、「みんな生きている」という映画の舞台挨拶に参加した。
- ・今後も若年層の周知に力を入れたいと思った。

ライオンズクラブ国際協会 334-E 地区から説明

- ・会員数は1,800人
- ・令和4年度は、骨髄バンク長野ひまわりの会の支援をいただき、松本での勉強会を行った。
- ・令和5年度は、8月に上田市で3,500人集まる大きな会があり、骨髄バンク長野ひまわりの会の支援をいただき、啓発活動を行った。また、12月5日、小諸市で骨髄バンクに関する登録の啓発活動を実施予定。
- ・54歳以下の会員がどのくらいいるか調べたところ240人弱いた。この会員に個別にアプローチしたいと思う。40代はどのくらいいるのかといったことも調べていきたい。
- ・我々が登録していないのに、啓発活動はできないと思っている。来年6月までには登録数を伸ばしたい。

【質問・意見等】

ひまわりの会（笠原）

- ・ライオンズクラブが開催するイベントに県が職員を派遣し、ドナー登録会を実施してもらえないか。骨髄バンクを題材にした映画を流したり、映画のキャストを呼んでパネルディスカッションをしたり、話を聞くと、登録したいと思うので、若い人を集めて単独のドナー登録会をやった方が良いという提案。話を聞くだけでは話を忘れてしまう。諏訪で1回だけ登録会をやったことがあるが、それ以来やっていない。ぜひ検討していただきたい。ライオンズクラブはいかがか。

ライオンズクラブ（大山）

- ・良いと思う。

保健・疾病対策課

- ・御提案ありがとうございます。

ライオンズクラブ（大山）

- ・登録するハードルが高い。集まりがあるときに登録ができると良いと思っている。
- ・12月5日に県の登録会の開催が可能なかどうかを聞きたい。

保健・疾病対策課

- ・血液採取ができるかどうかの問題が大きいと思うため、この場では回答が難しい。県は医療機関ではないため、検討が必要。後日回答する。

ライオンズクラブ（大山）

- ・イベントには小諸市の首長等が挨拶で登壇予定。実のある登録につながるような会にしたいので、県の力を借りられると助かる。

保健・疾病対策課

- ・詳細を確認させていただいてから回答したい。

日本骨髄バンク（田島）

- ・集団登録会について。会場によって、採血行為自体認められないとされるケースが多い。提案はとも良いが、採血行為自体がハードルとなる可能性がある。会場への申請等が必要な場合があるため要確認。

保健・疾病対策課

- ・情報提供ありがとうございます。今後の開催に当たっても重要な視点。

（3）ドナー登録者の増加に向けた課題と今後の取組について

県から説明（資料6）

- ・世論調査の結果から、骨髄バンクのことを知っても登録する人は少ないと考えられる。
- ・登録から提供までにはいくつかの段階があるのではないか。その段階に応じた働きかけが必要であると考えられる。
- ・段階の一つに「登録について考える」というものがあると考えている。じっくり考えるための策、登録を後押しできる策が必要だが、ここの対策が不足している。令和5年度はこの部分を強化するため、WEB広告に取り組む。
- ・その他、登録へのアクセスのしやすさ、提供の際の補償がより充実すると良いと考えているが、都道府県単位での解決が難しい。日本骨髄バンクの意見を伺いたい。
- ・登録へのアクセスのしやすさとして、学校での開催ができると良いと考えているが、長野県赤十字血液センターに意見を伺いたい。

【意見等】

日本骨髄バンク（田島）

- ・患者と型が一致したときに通知を送るが、断ってくる方の理由の一つに「こんなに大変だと思わなかった」という返事が多い。登録についてじっくり考えてこなかったから、このような回答が多かったのかもしれない。そこに着目していただいたことはありがたい。
- ・「登録を後押しできる策」として、自分がコーディネーターに進んだとき、周りに迷惑をかけることなく話が進められるかがドナー自身、気になる場所。補償制度が会社にあるか、骨髄バンクに理解があるかがとても大事と思う。ライオンズクラブで、登録できる年代を調べたとのことだが、対象年齢でなくても協力できることはある。ドナーによっては、会社に黙って提供する人もいる。会社が後押ししてくれるような環境があると良いと思う。
- ・「アクセスのしやすさ」については、スワブが導入されてからの話だが、スワブでの登録ができるというツール（開発中）をイベント会場等で配ることにより、受け取る人が増えると思っている。骨髄バンク長野ひまわりの会から出た、イベントでの登録会等で将来的にはこれが有効になるのではないかと思った。
- ・スワブでの登録についてだが、実際は、ツールを受け取ってからスワブを請求するまでの間で、ドナー登録会で説明を受けたのと同じくらい確認事項を経た後に手元に届くようにしたいと考えている。

血液センター（織田）

- ・骨髄バンクの登録は、献血の実施と共催している。街頭献血の会場では、スペースを借りられるかがネック。商業施設では、駐車場にバスを停めるため、客用の駐車場を潰さないでほしいという店舗側の要望がある。現状、屋内施設を借りられるところで開催している。
- ・スポーツイベントでは、AC長野パルセイロで実施している。それ以外のスポーツチームは、スペースの問題があったり、献血自体を引き受けてもらえないような状況がある。県のスポーツ課と相談し、試合日に合わせて、献血活動ができないか話を進めているところ。現在フットサルチームから積極的な話が来ており、試合会場で献血実施を前向きに進めている。
- ・その他のスポーツも開催日に合わせて、登録会について実施ができないかを進めている。

保健・疾病対策課

- ・移植のリスクについて、ドナーやその家族にはどのように説明しているのか。

まつもと医療センター（伊藤）

- ・医療機関が登録のところに関与することはないが、ドナーとして選定されて確認検査で来院する。来院する人は、提供の意思がある程度ある人。ドナー用の冊子を用いて医学的な部分を医師から、それ以外をコーディネーターから説明している。説明時間は1時間から1時間半くらい。ある程度理解している方が来られているため、説明を聞いて、「この話は違うのではないか」と言う人はほとんどいない。

長野赤十字病院（植木）

- ・血縁の移植の際のドナーへの説明で気を遣っていることは、リスクについての説明。本人・家族は不安に思っている方が多い。骨髄バンクが作成したパンフレットを用いて説明し、「起こったことはすべてオープンにしてやっている」「過去には事故や死亡例が起きていて、色々な反省からドナー適格性基準を改正してきた」「骨髄バンクはこの基準に従ってやってきて、死亡例はない」といったことを話している。透明性の確保こそ安全性の確保と思っている。この話をすると、多くの方は「リスクはあるけれど、医療側の頑張りもあり、安全性は確保されているんですね」と納得する人が多い。
- ・日赤の献血センターでドナー登録会の説明員をしている方から質問を受け、講演会を開催した際も同様の話をしている。そのときに説明員の方から「もやもやしていたものがすっきりした」と言われた。

【質問・意見等】

ライオンズクラブ（大山）

- ・骨髄バンクの登録会の開催にあたり、会場の許可が必要な場合、献血車の近くに我々が別で、施設の許可をとって、啓もう活動と骨髄バンクのドナー登録会をすることができるのか。
- ・インセンティブがあれば本当にドナー登録数が伸びるのかデータで示してほしい。
- ・国の制度について、企業や大きな組織に、制度についての啓発活動をすることができるのか。それを主体でやるのはどこなのか。社員や会社への制度についての説明・勉強会・講演会があっても良いのでは。
- ・長野県の人口千人当たりの登録者数の順位は不名誉。早く順位を上げたい。

保健・疾病対策課

- ・後日回答する。

信州大学医学部附属病院（中沢）

- ・コロナ前に大学生や若い方への啓発、SNS の活用、スポーツイベントでの啓発等をしたほうが良いという意見があり、行動に移ったことは良い点。
- ・現状、移植の現場は困っていない。その理由は骨髄バンク全体に登録者がたくさんいるから。ただ、登録者の年齢が 40 代後半に傾いているので、あと 10 年以内にいなくなる。現場では 50 代はあまり選ばない。5 年以内に激減するのは目に見えているので、20・30 代を増やさなきゃいけない。ライオンズクラブも言っていたが、長野県がずっと 40 番台なのは恥ずかしいこと。そこをもっと広報したほうがよい。県のメディアに対して県の順位がこんなに低いということを広報し、大きなイベントを打つのが大事と思う。
- ・医療系学校に入っている若者に広報することで刺さるのでは。県が啓発を行った学校は医療分野ではないし、看護学生には刺さるけれど、学校の単位が小さい。全県的に医療系の大学を一堂に集め、20 代に特化したようなイベントを打つ。裏方にライオンズクラブに入ってもらい。準備にはかなりの労力があるが、そういったイベントをやると良いのでは。啓発は確実にできると思う。献血も含めたイベントだと特に大きいのでは。数パーセントしか入らないと思うが分母が上がる。
- ・全県では順位が低くても若い層は多い、ということがあると弾みになるのでは。

保健・疾病対策課

- ・今後、皆様のご意見を伺いながら進めてまいりたい。

◆ その他

血液センターより

- ・保健所でのドナー登録受付を実施する際の採血、送付の注意点について

◆ 閉会

(了)